

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介2 重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)
Author(s)	工藤, 敬一
Citation	東光原 : 熊本大学附属図書館報 = Kumamoto University Library bulletin, 3: 3-4
Issue date	1992-11
Type	Others
URL	http://hdl.handle.net/2298/10112
Right	

はなく、すべてから自己の成分を除いたものが異物であるとする定義を採用しており、現在はこの世の中になような異物についても予定異物として認識する能力があります。生体が異物を即座には排除できなかった場合には、この精密な認識系により異物が自己の成分ではないと認識された場合にのみ剣呑な武器の広範な使用が許されるようになっていきます。しかし、世の中には完全などといえる仕組みはないもので、この異物識別の間違いによる病気もあり、また必要以上の異物排除機能が発揮されて病気が重篤になることもあり、ここに医療が介入して防御の仕組みをコントロールし、治療の目的を達する機会が存在し

ているのです。

このような単純で剣呑な異物破壊の道具しか持たない防衛のための仕組みがかなり未完成なのか、または、自己統一性を保つためにはこのような仕組み以外には選択の余地がないのか、われわれには神の御業を批判する能力はないのですが、精神的な問題、社会的な問題なども含めて、統一性を保つ仕組みの難しさを感じてしまいます。

(医学部分館長 病理学)

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介2

(2) 宇治惟平契状 (原本写真を表紙に掲載、原文解説を次ページに掲載)

〈宇治惟平契状〉

ひこのくにもりとみのしやうの事、こさねすみ
 の、やうきう三ねん正月十八日、かうさのみや
 の神りやうたるへきよし、けいやく候事、
 けんせんに候、しかるに、さんぬるほうちの
 ころ、くわんとうのけんぬをもて、したち
 をかすめとられ、たうしやの御ねんくしんよう
 まいをうちとめられ候を、いま神明そう
 きやうの御よに、一二のみや御こうきやうのあいた、かうさの
 みやは、たうこくの二のみやにて御わたり候へは、しやけの御
 ちうちとして御そうもん候で、御あんとのときは、さねすみ
 のけいやくにまかせて、もりとみのしやうのそたうまい、
 まいねん二はんふんお、けたいなく、ゑいたいをかきりて、し
 やけにきたをいたし候へく候、したちにきては、
 御いろいろあるましく候、惟平ちきやうさうあるま
 しく候、たかいにやくそくのふんへぬかい候はんときは、
 ほんしゆさねすみのけいしやうにまかせて、した
 ちはぬふんゑいたしやけにはけとられ、御ち
 きやう候はんとき、いささかもしさいあるましく候、
 よてこ日のために、しやうくたんのことし、

けんふくわねん七月十九日 宇治惟平(花押)
 「爲後證各所加判形也、權律師 良鑒(花押)
 權少僧都惠珍(花押)」

重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)

工 藤 敬 一

〈原文解説〉

本状は、鎌倉幕府が倒れ、後醍醐天皇の新
政権成立直後の建武元年（1333）7月、九条
家領の荘園であった肥後国守富荘（現在の下
益城郡富合町一帯）の下司木原氏の権限の継
承者たることを主張する宇治惟平が、本主の
木原実澄の承久3年（1221）の契約にしたがっ
て、甲佐社に所当米（本年貢）の半分を進納
することを約束したものである。

木原氏は平安末期以来宇城地域の最有力武
士団（在地領主）であり、その所領を九条家
に寄進して下司（筆頭荘官）となったが、守
富荘には阿蘇社の末社で肥後二の宮の甲佐社
の支配権と重なる居合田（^{いあいでん}）と呼ばれる35町の田
地があり、これが両者の紛争の種となった。
両者の対立のなかで、甲佐社の神人の^{じにん} 糺^{ただす} 藤
次が木原実澄に殺害された。甲佐社は下手人
の引渡しと実澄の所領の没収を要求し、容れ
られぬなら神人一同蜂起すると強硬に主張し
た。実澄もこれに抵抗したが、結局承久3年
和与（条件付和解）することになった。その
条件は、守富荘を甲佐社領とし、所当米の半
分を甲佐社に寄進するが、下地支配権（現地
管理）は実澄の手にとどめる。ただし居合田
は甲佐社の管理とする。これに社家側が違反
したらこの和与をとり消し、実澄または後継
者が違反した場合は、守富荘の下地（田地）
半分を、永代完全に甲佐社領とする、という
ものであった（承久3年正月18日 木原実澄
契約状案）。しかるに宝治のころ（1247～9）
当荘は関東（北条氏）によって下地を^{かす} 掠めと

られ、甲佐社の年貢神用米も打ちとめられて
しまった。しかし、新政権が成立し、諸
国一・二宮の興行（保護振興）令が出された
ので、当国二の宮の甲佐社もその対象とされ
るならば、自分も実澄の契約条件を守ること
を約束する、というのが本状の趣旨である。

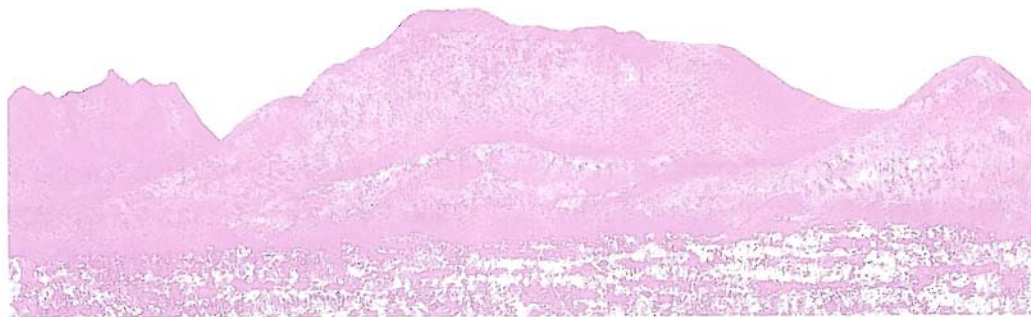
宇治惟平はその名前からみて阿蘇一族であ
り、系図上の位置は不明だが、おそらくは甲
佐社の社家につながる者であった。そして彼
の父祖は、阿蘇本末社の^{あずかりどころ} 預^{そうちとう} 所 兼惣地頭で
ある北条氏の下で地頭代にとりたてられ、守
富荘が甲佐社領化され、さらに建長2年
（1250）^{ちとうけ} 地頭請（請負）の荘園となるにおよ
び、実質的に北条氏の下で現地管理に当たっ
たものと思われる。惟平自身も幕府倒壊以前に
は、そのような立場にいた可能性も少なくな
い。幕府が滅亡し、建武政権が成立すると、
惟平は新情勢に対応して、関東（北条氏）に
よる守富荘支配成立以前の体制に復する形で、
守富荘の下地支配権の確保をはかったものと
思われるのである。

末尾に證判を加えているのは甲佐社の社僧
であろう（神仏混淆の時代で甲佐社にも神官
と社僧がいた）。

（文学部教授 国史学）

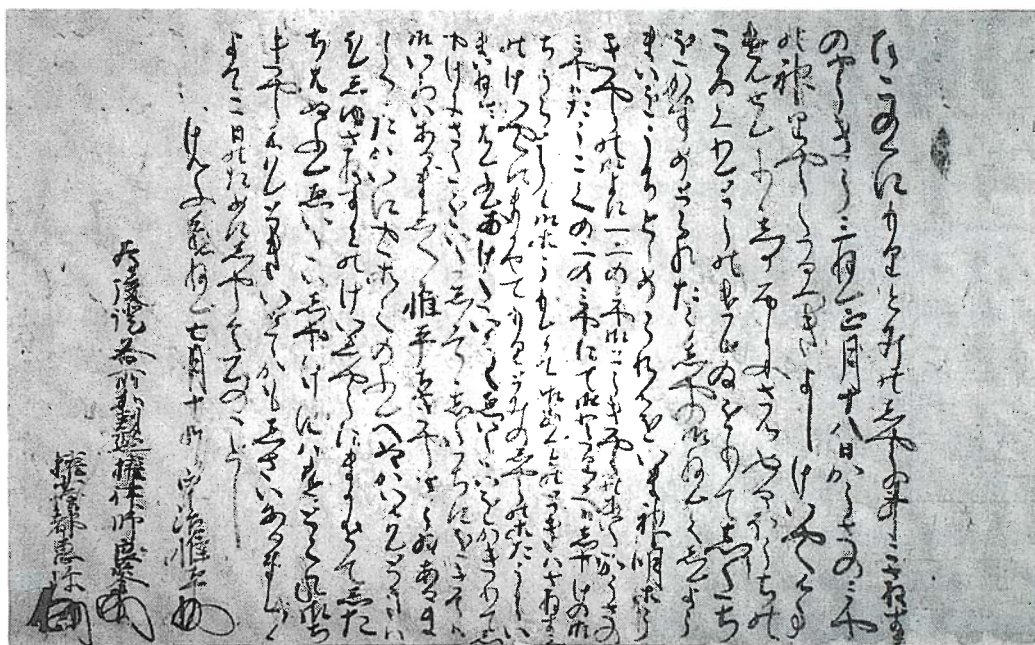
雑誌目録をどうぞ

「熊本大学学術雑誌目録 和文編
1990版」に、まだ若干の余部があります。
教官で必要とされる方は、学術雑誌係（内
線2215）までお申し出ください。



Kumamoto University Library Bulletin, No.3, November 1992

- 目次
- 炎症-防御と自己破壊のはざままで
 - シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介 2
 - 重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)
 - 反時代性と時代性
 - 時間外開館 (土曜日を含む) 変更のおしらせ
 - 平日時間外開館延長における利用状況
 - 平成4年度目録システム講習会 (中九州地域講習会) を開催
 - 本学教官寄贈著書紹介
 - 学生証で「九州地区の国立大学図書館」が利用できます



宇治惟平契状 (本学所蔵・阿蘇家文書より) 本文に解説